

# 熊本地震災害調査概要(その1)



2016年熊本地震  
災害調査速報

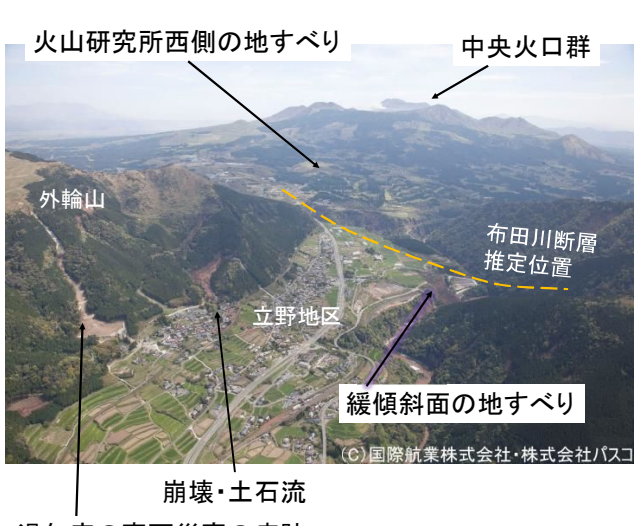
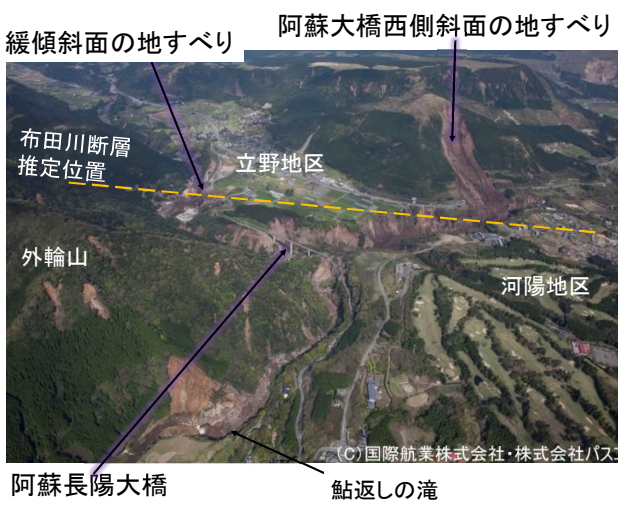
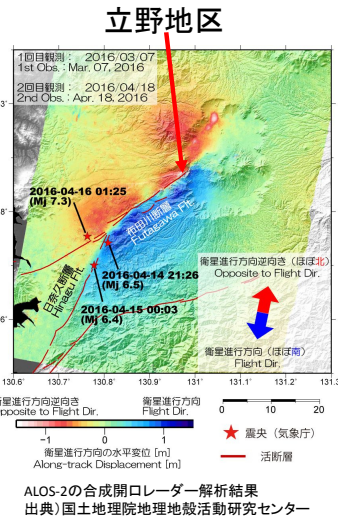
## 立野周辺の斜面災害

### 日本応用地質学会熊本地震災害調査団斜面災害班\*

\*加藤靖郎・井口隆・西山賢一・高見智之・田近淳・千田敬二・田村浩行・阪口和之・末武晋一・橋本修一・西村智博・撰田克哉・矢田純・山本茂雄

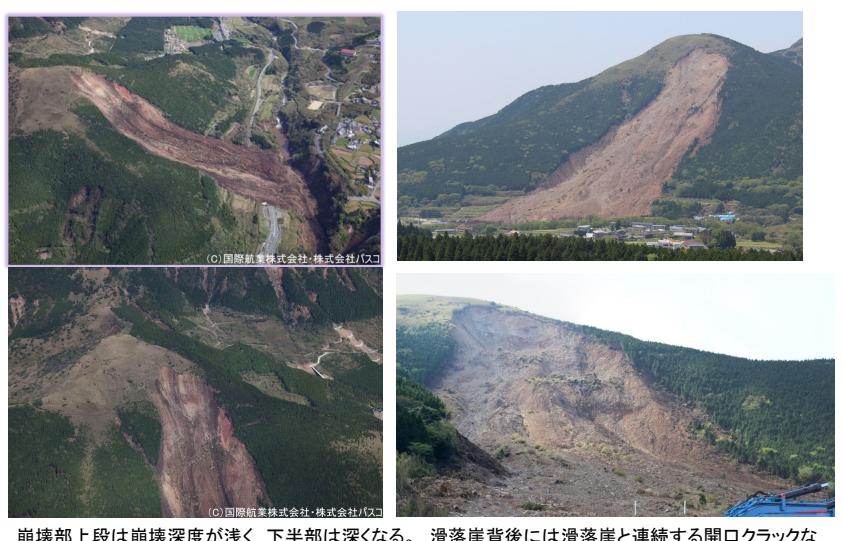
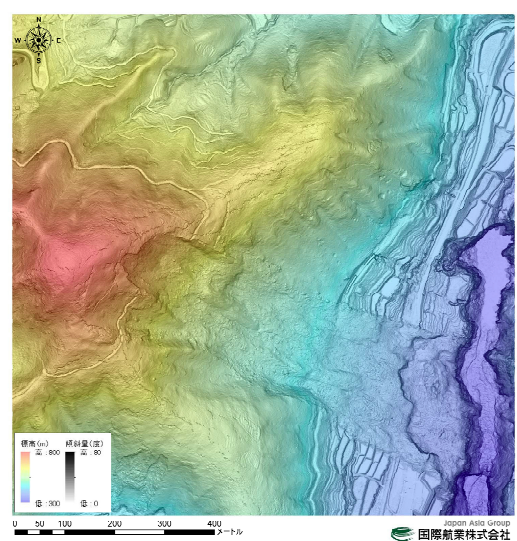
## 1. はじめに

立野地区は阿蘇カルデラの外輪山に深い谷が刻まれ、カルデラ内の河川が外部へ流出している唯一の場所である。この場所は布田川断層の東方延長部であり、地表地震断層が立野地区からカルデラ内の河陽地区にかけて確認されている。この付近での象徴的な災害として阿蘇大橋の崩壊とその西側斜面での大規模な崩壊がある。それ以外にも多くの斜面変状が、地震断層に沿って並ぶように集中している場所である。



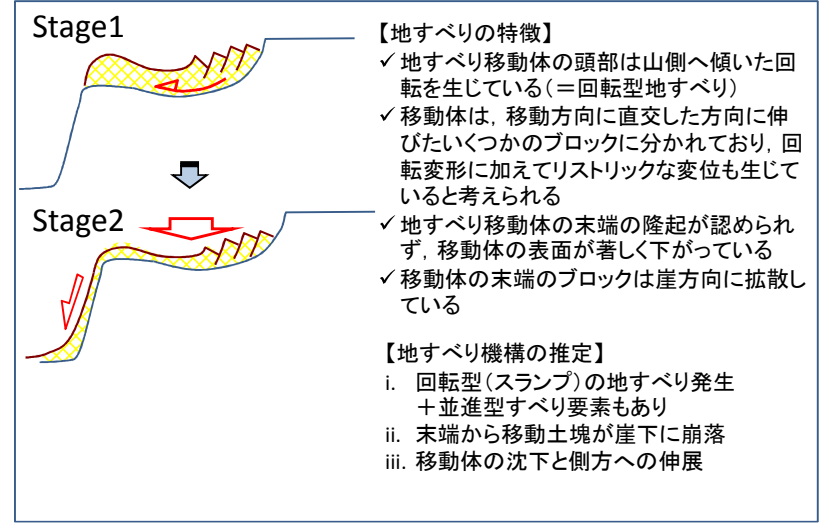
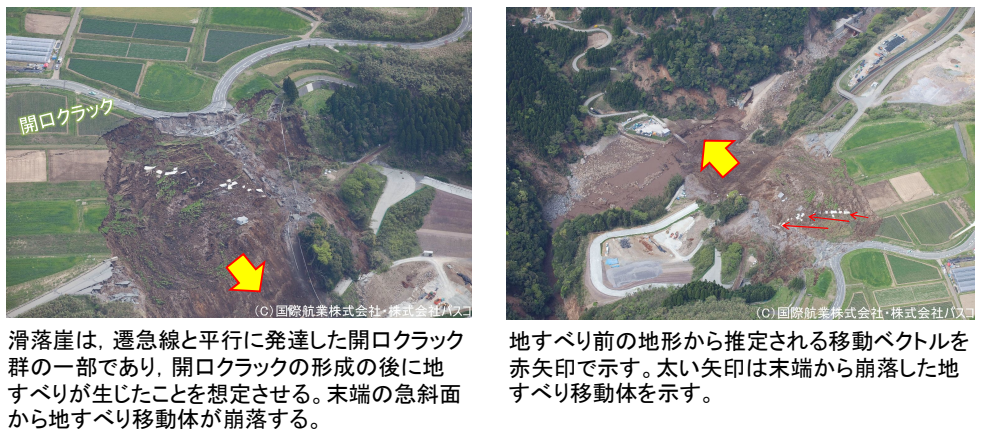
## 2. 災害の概要

### (1) 阿蘇大橋西側斜面の地すべり



### (2) 立野地区緩斜面の地すべり

立野地区のある平坦地形の端部の緩斜面で回転型すべりが発生した。滑落崖は長く伸びた開口クラックの一部であり、移動土塊の末端は河岸の急斜面から川へ崩落している。そのため地すべり移動体が沈下している。滑落崖では盛土と考えられる粗粒岩塊を含む不均質な土砂が分布している。



地すべり頭部は移動土塊のブロック表面が山側に傾いているが、移動体下部ではブロックが拡散している。

### (3) 阿蘇長陽大橋右岸斜面の斜面移動

阿蘇長陽大橋の右岸斜面は稜線から遷急線直下までの斜面が重力方向へ移動した。遷急線上にある道路面は、長陽大橋からのずれとして、水平方向で2m川側へ移動し、上下方向で1.7m沈下している。布田川断層は移動斜面の背後をとる。

